

第28回 神奈川大学全国高校生俳句大賞 入選作品 (64作品・58名)

氏名	学校名	入選作品			ほか 入選
		一句目	二句目	三句目	
松橋 伶音	北海道/旭川実業高等学校2年	スーパーの脇から伸びる青田道	花は葉に竹馬の友とすれ違ふ	母親と娘隔てる心太	★
吉田 暖和	北海道/旭川実業高等学校2年	本開く我が身を包む春の風	昼寝覚運命の本横にあり	作文の書く手止まらぬ夏の雲	
高橋 侑	北海道/旭川東高等学校3年	春近く白湯飲む母を見送れり	へその緒の茶の濃くなりし溽暑かな	短日や両手に骨壺の軽さ	
高野 晴	岩手県/水沢高等学校3年	冬の朝頬骨硬き笑顔かな	冬晴や私は家族の異物です	寒月や楽になりたくてひとり	★
高橋 生楽	岩手県/水沢高等学校3年	天牛の斑点僕の小宇宙	やどかりの腹はぶによりと巻いており	フズリナの化石の欠けら戻り梅雨	★
高橋 生楽	岩手県/水沢高等学校3年	友の目に「嘘」の一字やソーダ水	生真面目な友の初恋夏燕	蚊柱や今日は一人で帰る夕	★
中澤 美賀	岩手県/水沢高等学校3年	春暁や備中鍬の錆びており	溽暑ありジョルジュ・スーラの点描画	祖母の手の粉瘤檸檬掬ぐはやさ	★
中澤 美賀	岩手県/水沢高等学校3年	ほろ酔いの父へ無言のかき氷	豆飯や父と話が噛み合わぬ	湯豆腐や父ごちなく我を褒め	★
八幡 明日音	岩手県/水沢高等学校3年	涙が零れるオリオン座は遠い	凍星へ言う母の夢われの夢	深呼吸して星冴ゆる窓辺かな	★
遠藤 佳花	岩手県/水沢高等学校2年	消しかすの挟まる手紙水温む	陰口の声白濁の心太	夜這星プロットは今脳の中	★
高野 昊	岩手県/水沢高等学校1年	ミサンガの切れた先から春さざず	かさぶたの取れて膝より秋となる	黒塗りの姉のノートや枯木立	
安野 明里	宮城県/仙台第三高等学校2年	氷菓子言いかけたことまだ口に	蝉しぐれ無音のサーブー直線	後輩の焦る背中に秋の風	
田中 沙恵花	秋田県/秋田北高等学校2年	スカートをとくし上げるや夏の海	メロン切る君のまつ毛の煌めいて	夏休み片道切符で会いに行く	★
吉村 優菜	福島県/磐城高等学校3年	春の星ギプスに君の下手な文字	教室に入りたそうな紋黄蝶	制服のリボン忘れたけれど虹	★
尾関 クララ	茨城県/茨城キリスト教学園高等学校2年	同性のきみの頬風ぐゆるうめ	向日葵のふちどる宙を生きにけり	いまさつき濡れたくちびる星月夜	
横塚 ひばり	茨城県/下館第一高等学校3年	纏足の少女に見せるための蝌蚪	手相では素直と言はれ猫柳	やどかりになつて二日目なのだらう	★
横塚 ひばり	茨城県/下館第一高等学校3年	唐揚げのパセリの似合ふ男なり	みかんの剥き方に思想が出ているよ	銀河系はなれてクリスマスの街	★
木村 陽翔	群馬県/高崎高等学校3年	ビー玉に気泡入つてある冬日	柗の花や南京錠重く	霜月や底にココアの溶け残り	
堺 風歌	群馬県/高崎女子高等学校2年	黒髪を梳かす左手遅桜	遠足の知らぬ漢字に会ひけり	古本にテープの跡や青写真	
黛 知花	群馬県/高崎女子高等学校2年	先生の噂話に蜂通る	生命線の伸びた気がして春の星	三月の机に足を絡めけり	
櫻井 たま子	群馬県/東京農業大学第二高等学校2年	縁側に滴るラムネ汗の粒	スクロール宇宙に届く夏休み	夏痒く引っ掻く腕の赤みかな	
高橋 未来	埼玉県/淑徳与野高等学校2年	星月夜電子書籍の「山月記」	徒然に叛くくちびる檸檬はむ	夜鳥の目に喧騒と冴ゆる月	★
高橋 未来	埼玉県/淑徳与野高等学校2年	単語帳めくるリズムと薫風と	卒業や北斎ブルーの染み淡し	春愁や踊り場の影明度低し	★
小河 祐晴	千葉県/芝浦工業大学柏高等学校1年	打ち水に影ほぐれゆく午後一時	西瓜割り笑い声ごと海へ飛ぶ	蝉しぐれ眠気の底に木々の音	
小平 怜央	東京都/海城高等学校2年	冬晴れや雲となりゆく我の息	クリスマスかじかむ右手ポケットに	雪だるま流るる涙のあとけなさ	
土谷 海理	東京都/海城高等学校2年	秋水の湖だから歩けそう	向こうから鳩こちからは色鳥	星月夜立体駐車場満車	
田中 仁	東京都/開成高等学校2年	弟のつむじひねくれ冷房車	冷房はやさしくて蜘蛛住ませけり	冷房の外に眠りに曾祖父母	
原島 奏	東京都/開成高等学校1年	水中に百円ひかる夜店かな	荒海や神在月の子どもたち	麺冷やす水うつくしき西行忌	★
原島 奏	東京都/開成高等学校1年	ハンモック僕は風の子ではないが	新涼のざらついてある技術室	彗星の来てある無音大花野	★
金子 知紗	東京都/東京家政学院高等学校3年	ウィークエンドシトロンゆふやけに溶けだしてをり	18で死にたいと言ふ良夜かな	地球ごと冬三日月に刺されさう	★
林 千乃	東京都/東京家政学院高等学校2年	寝て薄く兄貴の夢や星月夜	ぜったいにあんかけうどん後の月	鳥渡るシーザーサラダとはやさし	
井堀 健琉	東京都/目黒学院高等学校1年	新学期僕の制服まだ固い	名を呼ばれ少しドキリと新芽かな	参考書開くが閉じて春眠す	
山本 美花	神奈川県/県立川崎高等学校3年	木枯しや逆さにならぬ逆さごま	寒空や均一棚の文庫本	隣へ帰る猫ふてぶてし春うらら	
村木 蓮	神奈川県/関東学院高等学校2年	譜面越し目と目が合ひし蝉しぐれ	休符にも絆を感じる夏合宿	ひまわりが明るく見上げる夢の果て	
泉 祐司	神奈川県/慶應義塾湘南藤沢高等部2年	初蝉やかばんに腐るお弁当	路線図をなぞる友の手夏来たる	新緑のくすぐつたくて球拾ひ	★
柳井 仁	神奈川県/慶應義塾湘南藤沢高等部3年	春宵やジャズピアノ微かに聞こゆ	夕風を静かに揺らすコントラバス	夏深しパイプオルガンの余韻	★
森 有沙	神奈川県/洗足学園高等学校3年	フルーツに空の映りて風光る	長靴のゴムの匂ひの暑さ来し	空腹な獣の黙や花は葉に	★
下平 佳夏子	神奈川県/洗足学園高等学校2年	春星やうたゝ寝の手にヴァイオリン	フルーツの歌口の金涼新た	オペラ座の天井まるく寒の入り	★
長谷川 実奈	神奈川県/洗足学園高等学校2年	花束のくびれにリボン風光る	たつぷりと夜明の雲や紅躑躅	葉桜やホースの水のこま切れて	★
清水 風希	神奈川県/横浜翠嵐高等学校3年	遠足の時計係の五分ごと	かくれんぼつつじの裏をまづ探す	二人とも片側に乗りオキザリス	★
中山 一詩	神奈川県/横浜翠嵐高等学校3年	踏切に立てば青田がみぎひだり	遠足や点呼のたびに消ゆる子ら	いつまでも出てきさうなる心太	★
吉岡 心晴	神奈川県/横浜翠嵐高等学校3年	よせてかへして寄居虫は抜け殻に	手花火のじゆうつと崩れ沈みけり	ぱつくりと死ぬまで蛤だつたもの	
友安 睦	神奈川県/横浜翠嵐高等学校2年	冬日和髪のおすちまで見てしまふ	春一番たつた一行の手紙	春暑し恋の叶つてひやうしぬけ	★
那住 悠太	神奈川県/横浜翠嵐高等学校2年	天牛や籠より髭の飛び出たる	秋扇に閉じ難き骨ありにけり	冬の水漱げば口の熱さかな	★
福村 紗矢	神奈川県/横浜翠嵐高等学校1年	梅雨曇端から端へ裁鉄	よそゆきを隠してしまふ青田かな	背泳ぎの白雲を過ぎ旗を過ぎ	
石崎 成人	神奈川県/横浜隼人高等学校3年	アロワナの消えし水槽冬の月	ひそやかな電球の音クリスマス	冬深し眠る姿で鳩逝きぬ	
グリニック・ソフィー	岐阜県/鶯谷高等学校2年	イヤホンをはづせば新涼の窓辺	バス停の数字隠せる蕨紅葉	大青田ドロンの風のさざめきて	
平木 陽翔	岐阜県/鶯谷高等学校2年	ガムランの星震はせて涼新た	ぶらんこの背中に母の掌の記憶	ぎゆうぎゆうと秋思の母へ握飯	
杉浦 颯亮	静岡県/静岡農業高等学校2年	水の声ひとりて鳴いている昼の蝉	花筏夢から帰る舟に似て	若葉風囁き運ぶ川の音	
李 韵涵	静岡県/浜松修学舎高等学校1年	朝霧に音なく沈む吊り橋よ	石ひとつ動かぬままの秋の水	返事なき風にちぎれる便りかな	
福田 匠翔	愛知県/名古屋高等学校3年	スカートの二人に広き青田かな	ヴァイオリン背負ふ子どもや花は葉に	鶴鴿や水に透けたる水の影	
東野 礼豊	愛知県/名古屋高等学校2年	雲梯が背より低くて花曇	行く夏のベッドを占むる七並べ	エレベーターに乗っても月の話して	★
神田 恭志	京都府/京都共栄学園高等学校3年	やどかりや炎はみづの色をして	深淵を覗く大天牛がある	神木にやはらかな熱黄鶴鴿	
水谷 寛太	京都府/京都共栄学園高等学校3年	耳たぶのひんやりとしてハ朔柑	息止めて誘蛾灯から誘蛾灯	瘡蓋の薄さに触れて花八手	
西森 結海	大阪府/関西大学第一高等学校3年	終電のホームにかかるオリオン座	秋雷や目次で閉じたミステリー	カシオペア家路静かに導いて	
三木 陽菜子	和歌山県/智辯学園和歌山高等学校1年	冬鳥やフェンスを一マスずつ渡る	祖母の家へ雪うさぎの目採りにいく	紅葉散る明日があるとも知らないで	
平野 直太郎	岡山県/岡山朝日高等学校3年	冷蔵庫ひらきて小言聞き流す	船虫を散らせる叔父の黒き足	生家無き故郷に住まむ百日紅	
福重 憂愛	広島県/尾道高等学校1年	初弓射花火のごとく響きけり	なんとまああなたに似てる夏の雲	行く春や君の瞳に我はなし	
堀澤 明香里	山口県/徳山高等学校2年	進路課の教師私服のアロハシャツ	教師とてかき氷食ふ三年目	愛称のある教師こそ海月かも	
小原 杏菜	愛媛県/済美平成中等教育学校5年	信号のみじかき坂や青嵐	関節をひとつ鳴らしてあいすくりん	日焼け子にゆつたりと髪編みしあと	
山本 恭児	愛媛県/松山東高等学校3年	星月夜百科事典の革赤し	果樹園へなだれ込みたる天の川	星飛んで蛸壺百個鎮まれり	★
山本 恭児	愛媛県/松山東高等学校3年	海峡へ降りる鎖や鬼薊	秋澄むや瓦眩しき漁師町	潮騒の只中鶯の待合所	★
宮城 未徠	沖縄県/昭和薬科大学附属高等学校2年	脈々と足跡続く夢の島	夏が過ぎ空に広がるうろこ雲	夕焼と一緒に終わる部活動	
當山 大和	沖縄県/読谷高等学校3年	真夏日に響く号令友と駆く	吐く息の白さに気づく朝の道	春光や鍵ひとつ持ち旅立ちぬ	

※ほかにも入選している作者に★をつけています